

Q19 児童生徒が複数いる時、どのように指導するのが難しいです。異学年で、発達段階も違う、障がい名も様々です。



特別支援学級担任

複数人児童生徒がいる時、指導内容が異なる場合、個人別の指導に陥りがちになってしまいます。



通級指導教室担当

個々にあった自立活動をしたが、複数人いるとどうしても一斉の指導になり、それが実態と合っているのか分からず困っています…。



特別支援学級担任

複数生徒がいる時、一人で指導すると、個別指導ができません。

A ①同一教材異内容で指導する、②指導内容別にそれぞれ教材を用意し、直接指導と間接指導を組み合わせたわたりの指導を行うの、いずれかの方法で、①と②を組み合わせる等工夫して授業を展開します。

異学年で発達段階や障がい種が異なっても、個々の指導内容を基に授業を考えます。例えば、指導内容が、A児「気持ちが不安定になった時には、その場を離れて休憩する」、B児「気持ちや状況を整理しながら言語化する」、C児「ルールを守ることや負けた時の対応方法を考える」と設定されていたとします。

①同一教材異内容で指導するというのは、ソーシャルスキルトレーニングの絵カードを教材にA児、B児、C児それぞれに対応した場面のカードを使って皆でどうするか考えたり、それぞれに対応した学校生活場面を題材にロールプレイを皆で行ったり等、各個人の指導内容に対応させながら同じ教材で授業を展開する方法です。

②のわたりの指導を行うというのは、A児、B児、C児の机間を仕切ったり、机を離して配置したりして、お互いの学習が干渉しないようにし、A児には4コマ漫画で、その状況での対応方法を考えさせる、B児には、絵カードとワークシートを使って、気持ちや状況を整理させて、話し方を考えさせる、C児には動画で、その状況での対応を考えさせる等、個別に異なる教材を準備し、授業を展開します。その際、教師は机間を巡り、個別に直接指導したり、児童生徒が一人で学習を進めたり(間接指導)します。

①の方が対話的な学びもあり、全体としてまとまるのですが、指導内容や児童生徒の実態によっては、②の方法を取らざるを得ないこともあります。例えば、授業の前半は①で、後半は②という展開もありますし、A児とB児は①で、C児は②でというように、児童生徒で分けて展開する方法もあります。柔軟に方法を工夫しましょう。

②は、よく計画された複式学級の授業を想像していただければよいです。授業の導入と振り返りは合同で行う等、対話的な学びの場面を設ける工夫も考えられます。

